

修了生挨拶

本日はご多忙の中、私たち修了生のために諸先生方のご臨席を賜り、学位授与式を執り行っていただきましたこと、修了生一同、心より御礼申し上げます。また、國部研究科長、宮尾専攻長から心温まる励ましのお言葉をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

加えて、日々の運営において多大なご配慮をいただきました教務の皆様、そして学業と仕事の両立を支えてくださった家族や職場の皆様をはじめ、私たちの学びの場を支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

振り返れば、この1年半は感謝の1年半でした。本当にありがたいことばかりでした。「働きながら大学に通う」ってどんな意識高い人たちの集まりなんだろう、と少し身構えて迎えた去年の春が、いまや遠い昔のように思えます。

わずか1年半前なのに、これほど遠く感じるのはそれだけ濃密な時間を過ごしたからといえるでしょう。例えるならば、MBAでの生活は、まるでドラゴンボールの「精神と時の部屋」に入っているかのような時間の流れでした。ご存じない方のために説明しますと、「精神と時の部屋」とは、鳥山明先生的不朽の名作「ドラゴンボール」に登場する修行の部屋のことです。外の1日が部屋の中では1年、重力は地球の10倍、空気は地上の4分の1、気温はマイナス40℃から50℃で乱高下するという、かなり過酷な環境です。MBAの生活も同様に、入学前の何十倍もの濃密な時間を過ごした気がしますし、精神と時の部屋における「空気の薄さ」は、常に課題に追われ続けるMBA生活の「息苦しさ」と重なり、「気温の乱高下」は、プロジェクト研究におけるチーム内の「人間関係の急激な温度変化」を思い出させます。その過酷さのおかげで、私たちはビジネスにおける戦闘力を短期間で飛躍的に向上させることができました。

さて、ここからは1年半のカリキュラムを「感謝」をテーマに振り返ります。少々長くなりますが、当時を思い出しながらお聞きいただければ幸いです。

最初に私たちがMBAの洗礼を受けたのは、栗木先生による「Sales&Marketing」でした。先生はどんな質問に対しても、常に最速で、最短で、最適な答えを提示してくださいました。それなりに実務の世界ではブイブイ言わせてきた私たちですが、先生の思考スピードと深さにはただただ驚嘆するばかりでした。

講義ではコカ・コーラや、ライフネット生命のケースなど、たくさんの事例を通じて学びを深めました。しかし、出されるお題は身近なものではありませんでした。ソーレンケミカル社の「コラクル」という、家庭用プールをキレイにする謎の薬剤。その販売戦略は、プール付きの家に住んだこともない私たちにとっては困難を極めました。今思えば、見たことも聞いたこともない商品でも、与えられた情報から顧客価値へきちんと接続する訓練だったのだと思います。新たな気づきをいただき、感謝申し上げます。

後半は吉田先生。いつも柔らかな雰囲気、栗木先生とのギャップも相まって多くの同期が癒やされました。それほど大した質問でなくても、いつも先生は「素晴らしいですね！」と肯定してから受け止めてくださいました。あの第一声にどれほど救われ、自己効力感が静かに底上げされたことかと思えます。「Sales&Marketing」はまさにMBAの導入として最高の経験でした。心より感謝申し上げます。

続いて、宮尾先生・原先生の「Technology&Operations Management」通称TOM。セールス&マーケティングでは鳴りを潜めていた製造畑の同期が水を得た魚のように生き生きし始めました。「こんな賢い人がまだ隠れていたのか」と、毎回のグループディスカッションが楽しみだったのを覚えています。

後半のイノベーションパートでは、「レポート革命」が起きました。原先生の「イノベーションがテーマなのに生成AIを禁止するのはおかしい」という、至極合理的な判断で生成AIの使用が解禁されました。これにより、私たちの生成AI活用力は一気に向上しました。正直に申し上げ

げますと、MBAの学びの中で、まさに今仕事で最も役に立っているのはこのスキルかもしれません。柔軟な運営に、心から感謝いたします。

そして、猛暑とともにやってきた「Individuals&Groups」。担当は神戸大学MBA随一の爽やか教授、服部先生。さぞかし爽快な講義で、人や組織にまつわる心のモヤモヤを晴らしてくれるだろう...と思いきや、与えられたのは、山火事やスペースシャトルの爆発といった、人の生き死ににまつわるケースでした。そんな究極の判断をリーダーシップ論で語るという難題に、正直面食らいました。しかし、この授業で鍛えられたのは、状況を想像し、他者を慮る力です。重いケースを通じて「人こそが最大のレバレッジである」ということを深く理解することができました。

後半の江夏先生のパートでは、人事制度という「答えのない領域」に真正面から挑みました。公平公正と多様性。こっちを立てればあっちが立たず。それはもはや哲学でした。目を閉じて、深い思考の森をさまよい、気づけば道が拓けている...江夏先生の滔々とした禅問答のような語り口は、腹落ちと寝落ちを同時に促す不思議な時間でした。唯一無二の講義をありがとうございます。

4つ目の「Controlling&Reporting」は、意思決定の言語として会計を身につける科目でした。コントロールもレポートもしたことのない私のような学生に対し、ご担当の清水先生は、「会計は怖くないよ」と、いつも優しく丁寧に導いてくださいました。

学生を思いやる優しさは、後半の梶原先生も同じで、テストに出る問題を事前に教えてくださるという、驚くべき配慮がありました。そんな先生は後にも先にも梶原先生だけです。おかげで、多くの学生がこの難科目を落とさずに済みました。

最後のコア科目は、御年77、喜寿を迎えられたコジケンこと小島健司先生の「Strategy」でした。先生は昨年で引退ということで、私たちはコジケンのストラテジーを受けることができた最後の代となりました。

忘れられないのは、先輩からも語り継がれていた超重量級のレポート課題です。これまでのスタイルとは異なり、パワーポイントでの提出という形式に戸惑いながらも、四つのコア科目をくぐり抜けた自信を胸に全力投球しました。しかし返却された1回目のレポートは、多くの学生がまさかのC評価。評価基準の傾向と対策が掴めたのはそれから数週間後でした。高得点への道は、美しくまとめるという一般的なスライドの概念をいったん忘れ、とにかく情報量を詰め込むことだったのです。聞くとところによれば、A+の評価を獲得したレポートは文字サイズが6.5ポイント、9万字という圧巻の分量だったそうです。

77歳で毎週3コマ、およそ5時間にわたる講義。その体力と気迫にも、深く敬意と感謝を申し上げます。毎日何を食ったらそんなに元気でいられるのか。戦略論だけでなく、健康法も聞いておけばよかったと今、後悔しています。

これらのコア科目と並行して実施されたのが、チームでのプロジェクト研究でした。ケースとテーマ、それぞれ4か月にわたるプロジェクト研究は、チート級のスキルを持つ同期が数多くいることを痛感させられるものでした。

特にテーマプロジェクトにおいては、私のチームはテーマが文字通り二転三転し、発表の1か月前にようやく最終的な方向性が固まるという、極めて切迫した状況でした。しかし、このような状況にもかかわらず、最終的に納得のいく質の高い発表ができたのは、各メンバーが自分の強みと弱みを徹底的に棚卸し、それをオープンに共有していたからでした。それゆえ、研究のベクトルが一致した後のスピードは凄まじいものがありました。個人の強みと弱みの把握から、それに基づいて仲間へ適切に業務を委任し、さらに的確なフォローアップを行うという、この一連のプロセスは、実務に直結する極めて重要な教訓となりました。チームメンバーとの出会いに心より感謝申し上げます。

そして、最後に立ち上がったのが修士論文。入学前、情熱を込めて研究計画書を書き上げたはずなのに、担当教授から厳しい指摘を受けるたびに、自分が何をしたいのかが分からなくなっていました。しかし、結局私にとっての救いとなったのは、他でもない同期の存在でした。個人戦でありながら、自分のことのように親身になって壁打ちをしてくれたり、忌憚のない意見を述べてくれたり...停滞しそうになる思考を常に活性化させてくれました。

さらに、この経験を通して得られたのは「言葉を大切に扱う力」です。実務の世界では、往々にして「えいやー」と勢いで物事を進めてしまう場面が多くあります。しかし、論文の執筆では、物事の本質を深く見極め、思考を論理的に積み上げて、言語化する必要があります。この経験で得たスキルは今後の実務にも役立つ非常に大きな財産です。

今この壇上に立ち、改めて思い起こすのは、入学前に読んだ神戸大学MBAのプログラムが書かれたビジネス書「人生を変えるMBA」です。この1年半を振り返り、確かに私たちの人生は大きく「変わった」と実感しています。しかし「変わった」こと自体が価値なのではありません。その変化をこれからの人生でいかに活かしていくかにこそ、本質があります。ここから先は、この「学び」を一時的なもので終わらせず、「学び続ける」ことを人生の習慣として定着させるフェーズです。

この「続ける」ということは、時に困難を伴い、だからこそ尊い行為です。私たちは、この場で培った知見と情熱を胸に、新たな価値を創造し続け、それを社会に届け続ける使命を負っていると自覚しています。その実現のためにも、神戸大学MBAで出会ったすべての方々との貴重な関係を、これからも繋ぎ続けていきたいと願っています。この繋がりが、私たち一人ひとりの未来、そして社会全体の未来を豊かにする原動力となるはずです。同期の皆さんにお願いです。定期的に集まり続けましょう。集まる口実を作り続けましょう。ご家族の皆さま、集まりの際にはどうか温かく見送っていただけると幸いです。

「人生を変えるMBA」という言葉に導かれて始まった私たちの旅は、今、「人生が豊かになるMBA」へと、その意味が進化しようとしています。神戸大学MBAでの素晴らしい出会いと学びへの深い感謝を胸に、私たちはこれからも歩みを止めることなく、実務と学びの往復を精力的に続けてまいります。そして、社会に貢献し続ける存在でありたいと強く願っています。

最後になりましたが、このような素晴らしい学びと出会いの機会を賜りました神戸大学MBA並びにこれを支えてくださった皆様に改めて深く感謝申し上げます。皆様のいっそうのご健勝と多大なご活躍、そして神戸大学MBAの限りないご発展を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2025年9月27日
修了生総代
関谷祐輔